

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>5年、10年先を見据え、社会の変化に臨機応変に対応し、自らの可能性を發揮することができる生徒の育成を目標に、以下にめざす学校像と特につけたい力を示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら考え、自ら行動できる主体性を育てる学校 【物事に進んで取り組む力】【目標を設定し確実に行動する力】 2. 「学び」から知識を習得し、得た知識を「活用」できる力を育てる学校 【現状を分析し目標や課題を明らかにする力】【課題の解決に向けたプロセスを明らかにし実行する力】 3. 自身を大切にできる心、他者を尊重する心、協力し合える力を育てる学校 【自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力】【自分の意見をわかりやすく伝える力】 4. 生徒が安心して過ごすことのできる学校 【社会のルールや人との約束を守る力】

2 中期的目標

<p>1 変化する社会に対応する能力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実</p> <p>(1) 計画的に学力向上に取り組む枠組みの確立</p> <p>ア 各学年で行う進路調べなどの進路行事、各考査後の「振り返りシート」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。</p> <p>イ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。 ※生徒向け自己診断「学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答率 (H30:77%、R01:78%、R02:83%) →80%以上維持</p> <p>(2) 授業改善</p> <p>ア 各授業で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざす活動を中心に据え、現代的な諸課題への対応力を育成。</p> <p>イ 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた教科内研修の推進。外部教員への授業公開。ICT機器の整備・活用。 ※生徒向け自己診断「授業で必要な学力が身に付く」の肯定的回答率 (H30:85%、R01:86%、R02:88%) →90%</p> <p>(3) 生徒の進路実現の組織的サポート</p> <p>ア 夏期集中講座、冬期集中講座の計画的な実施と内容の改善。 ※事後アンケートの生徒満足度 (H30:95%、R01:98%、R02:未実施) の数値90%以上維持</p> <p>イ 生徒の進路希望に合わせた情報の提供と、必要な講習等支援の実施。</p> <p>ウ 総合的な探求の時間・LHRを活用した自己分析に基づく進路計画の作成と実施 ※生徒・保護者向け自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的回答率生徒 (H30:81%、R01:81%、R02:88%) →80%超維持、保護者 (H30:88%、R01:82%、R02:80%) →80%超維持、難関私立大学合格者数 (H30:57人/390人、R01:57人/343人、R02:47人/345人) の向上</p> <p>2 チームで働く力の育成</p> <p>(1) 人としての豊かな見識と情操の育成</p> <p>ア 教育活動全体を通じた豊かな人間性の醸成。 ※生徒向け自己診断「生命を大切にできる心や社会ルールを学び人権意識が身に付いた」の肯定的回答率 (H30:82%、R01:86%、R02:89%) →90%</p> <p>イ 計画的な人権教育の実施。 ※3年間で「同和問題」「在日外国人問題」「コミュニケーション」「障がい者問題」「LGBT」「統一応募用紙と違反質問」「拉致被害者」について学習する機会を設ける。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立と、自主的・自律的な行動を身につけられる生活指導の実施</p> <p>ア 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成。 ※遅刻総数の減少 (H30:1400、R01:1504回、R02:873回) →1000回以下、生徒向け自己診断「規律を守りモラルある行動をとっている」の肯定的回答率 (H30:94%、R01:96%、R02:99%) →95%超維持</p> <p>(3) 学校行事による協調性・協働性の向上</p> <p>ア 学校行事の運営を通して、自らの役割の自覚と責任感を持ち、仲間とともに何かを成し遂げる難しさと喜びを学ぶ。 ※生徒向け自己診断「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答率 (H30:87%、R01:89%、R02:90%) →90%超維持</p> <p>3 学校の魅力の向上</p> <p>(1) 豊かな学校生活を支える活動</p> <p>ア 充実した設備を活用した活発な部活動の持続。 ※部活動ガイドラインの遵守、生徒向け自己診断「部活動は楽しく充実している」の肯定的回答率 (R02:87%) →80%以上</p> <p>イ 生徒会活動の活性化による学校行事や部活動の更なる充実。 ※生徒向け自己診断「行事は魅力あるものとなるよう工夫されている」の肯定的回答率 (H30:68%、R01:71%、R02:73%) →80%</p> <p>ウ オーストラリア St ルークス高校との連携の強化による、国際化に対する意識の向上。 ※留学に参加した生徒の満足度 (H30:95%、R01:100%、R02:実施せず) →95%超維持</p> <p>(2) 困り感を持つ生徒への支援体制の充実</p> <p>ア 校内における教育相談体制の活用に向けた生徒、保護者への支援体制の周知徹底。 ※生徒・保護者向け自己診断「相談しやすい環境が整っている」の肯定的回答率生徒 (H30:64%、R01:65%、R02:74%)、保護者 (H30:71%、R01:73%、R02:71%) →ともに80%</p> <p>イ SC等の外部人材の活用による教育相談体制と迅速な生徒情報の共有によるサポートの充実。 ※中途退学生徒、不登校生徒0をめざす。</p> <p>(3) 体育・スポーツの拠点校としての体育科の取り組み</p> <p>ア 「スポーツ総合演習」など体育科専門の授業と活発な部活動を通じた、計画力、行動力のあるリーダーの資質を持つ生徒の育成。</p> <p>イ 活発な部活動による、将来のトップアスリート・競技指導者等の育成。</p> <p>4 健全な職場環境、安全安心な教育環境の確立</p> <p>(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む職員集団の確立</p> <p>ア 職員同士の円滑なコミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止。</p> <p>イ 業務内容の精選、平準化、効率化。</p> <p>(2) 安全安心な教育環境の確立</p> <p>ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。 ※安全点検等で不良個所の減少を図る。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」の肯定的な回答 R1 96% R2 99% R3 97% と95%以上を維持している ●「個々の違いを認め合う人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」の肯定的な回答 R3の項目であるが95%以上 ●「相談しやすい環境が整っている」の肯定的な回答 R1 65% R2 74% R3 73% 70%以上は維持している ●「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的な回答 R1 85% R2 86% R3 87% 向上している <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」の肯定的な回答 R1 96% R2 97% R3 95% と95%以上を維持している ●「子どもが、命の大切さや社会のルールを守るように日常意識して行動している」の肯定的な回答 R1 90% R2 90% R3 95% 向上した 	<p>第1回 (7月8日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問を行うことについて、体育科の定員割れもあり、広報活動に期待する。本校を選んだ生徒の意見を広報活動に活かしてほしいとの意見をいただいた。 ・困り感のある生徒に対して向き合い、教員の一致団結を、職場の環境づくりをお願いされた。人権たよりについては、小さな積み重ねが他者を思いやること、言葉かけが大切なこと、先生が休み時間などに声掛けし、気づけるかが大切である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、企業もお祭りができない。吹奏楽部が出演していたができない。

<ul style="list-style-type: none"> ●「相談しやすい環境が整っている」の肯定的な回答 R1 73% R2 71% R3 64% 低下した ●「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的な回答 R1 80% R2 78% R3 73% 低下した <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「学習形態や指導方法の工夫・改善を行っている」の肯定的な回答 R1 78% R2 84% R3 98% 向上している ●「相談しやすい環境が整っている」の肯定的な回答 R1 93% R2 94% R3 88% 低下した ●「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定的な回答 R1 94% R2 96% R3 98% 否定的な回答がほとんどなかった <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「相談しやすい環境が整っている」（保護者）の肯定的な回答が例年よりも低かった要因として、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から来校制限や対面での懇談等を控えた時期があったので、その影響があったと考えられる。 ・人権意識については、「個々の違いを認め合う人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」（生徒）の肯定的な回答（R3の新項目）において95%以上の肯定的な回答が得られ人権意識が身につく、豊かな人間性が醸成されてきたと考えられる。 ・「学習形態や指導方法の工夫・改善を行っている」（教員）の肯定的な回答が多くなった。ICTの活用や観点別学習評価等を踏まえて、これまで以上に前向きに取り組んでいる。 <p>教職員については、項目全体を通じて『チーム学校』として組織的に行動できたと考えられる。</p>	<p>第2回（10月27日）</p> <p>1人1台端末を使った授業の見学。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の授業の様子や指導方法の変化について関心の声があった。 ・ペーパーで行っているものが電子に変わっていくことが実感できた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で行事がなくなり、大学での入試面接で高校での行事についてなどは質問できなくなっている。できる限り学校行事を実施してもらいたい。 <p>第3回（2月9日）実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートの回収方法についての質問があった。本年度は生徒・保護者・教員すべてがWeb回答を行った。生徒はHRで入力したが、保護者はうまくフォームに入らず回答率が上がらなかった。 ・学校教育自己診断アンケート項目の「学校は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」という質問ではいじめで困っている場合の質問なので、「いじめが起こる前に積極的な取り組みを行っている」という質問に代え、学校の取り組み体制を聞き取りに生かした方がいいと意見があった。 ・防災について、地域の避難訓練を2年前まで摂津高校体育館で行っていた。生徒も地域の方に声掛けをしてくれたと聞いている。新型コロナウイルス感染症の影響で2年間できていないが、来年度はぜひお願いしたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 変化する社会に対応する能力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実	(1) 計画的に学力向上に取り組む枠組みの確立	ア 各学年で行う進路調べなどの進路行事、各考査後の「振り返りシート」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。 イ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。	ア ・生徒向け自己診断「学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答率を前年度より向上させる。[83%] ・「授業に必要な学力が身に付く」の肯定的回答率を前年度より向上させる。[88%] イ 1・2年生の「学力GTZ」のS~Dの割合、B以上：50%以上、D：10%以内にする。(新)	ア. 85.6% (○) R3 新規項目「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 85.7% イ B以上 40.5% (△) D 14% (△) 実施日が夏休み直後の8月23日であったこともあり、新型コロナウイルス感染症感染拡大の時期とも重なり、落ち着いて取り組められなかったことも要因の1つと考えられる。
	(2) 授業改善	ア 各授業で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざす活動を中心に据え、現代的な諸課題への対応力を育成。 イ 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた教科内研修の推進。外部教員への授業公開。ICT機器の整備・活用。	アイ ・授業アンケート「先生はプリント等の教材やICT機器を効果的に活用している」（2回の平均3.30）、「生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている」（2回の平均3.28）の項目3.3以上を維持する。 ・教科横断型の授業見学	アイ ICT活用 3.40% (○) 発表の機会 3.35% (○) ・1学期に2週間程度の互見授業を開催し教職員の感想等をまとめて職員会議等で報告。
	(3) 生徒の進路実現の組織的サポート	ア 夏期集中講座、冬期集中講座（1・2年生を対象に夏季・冬季休業中の各3日間に1日あたり10時間以上の学習活動を実施）の計画的な実施。 イ 生徒の進路希望に合わせた情報の提供と、必要な講習等支援の実施。 ウ 総合的な探求(学習)の時間・LHRを活用した自己分析に基づく進路計画の作成と実施。	ア 事後アンケートの生徒満足度の数値90%以上を維持する。[未実施]。 イウ 生徒・保護者向け自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的回答率80%以上を維持。[生徒88%、保護者80%]。難関私立大学合格者数の向上[47人/345人]。	ア 夏期 95% (○) 冬期 96% (○) 参加者のほぼ全員から肯定的回答を得られた。次年度は(特に冬期)参加人数の増をねらうため開催時期の検討が必要。 イウ 生徒 83.4% (○) 保護者 75.2% (△) ・生徒は一定満足している。保護者にはHPでの掲載及びオンデマンド形式での説明会を実施したが活用しただけでなかった。次年度は周知方法を工夫する。 ・難関私立大学合格者数93人/299人 (延べ人数) (◎)
2 チームで働く力の育成	(1) 人としての豊かな見識と情操の育成	ア あらゆる教育活動において、人権感覚を育成する。 ・生徒向け人権学習の充実（3年間を見据えた人権教育の構築） ・教職員向け研修の実施	ア 生徒・教員向け自己診断「生命を大切にすることや社会ルールを学び人権意識が身に付いた」の肯定的回答率90%以上を維持。[生徒：89%、教員：94%]	ア 生徒 93.3% (○) 教員 91.4% (○) 生徒は身についたとの自覚があるが、まだまだ十分とは言えないので継続的な指導が必要。

府立摂津高等学校

	(2) 基本的な生活習慣の確立と、自主的・自律的な行動を身につけられる生活指導の実施	イ 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成。	イ 遅刻総数 1000 回以下 [873 回]。 生徒向け自己診断「規律を守りモラルある行動をとっている」の肯定的回答率 90%以上維持。	イ 遅刻 725 回 (◎) モラルある行動 生徒 97.9% (○)
	(3) 学校行事による協調性・協働性の向上	ア 学校行事の運営を通して、自らの役割の自覚と責任感を持ち、仲間とともに何かを成し遂げる楽しさと喜びを学ぶ。	ア 生徒向け自己診断「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答率 90%以上を維持する [90%]。	ア 92.2% (○) 新型コロナウイルス感染症の影響により、制限がある中、全員が協力できた。
	(4) 広報活動	ア 中学校訪問の戦略化を図る。 訪問中学校の新たな開拓。本校の魅力を中学校に発信し、より丁寧な情報提供等を行う。学校教育活動への理解と信頼を得る。	ア 広域を含めての訪問数[新]	ア 中学校訪問 140 校 ・通学圏内の中学校でも本校の魅力等伝わっていないことが分かった。次年度も積極的に取り組む
3 学校の魅力の向上	(1) 豊かな学校生活を支える活動	ア 充実した設備を活用した活発な部活動の持続。	ア 部活動ガイドラインの遵守。生徒向け自己診断「部活動は楽しく充実している」の肯定的回答率 80%以上を維持する。[87%]。	「部活動等に積極的に取り組んでいる」 82.0% (○)
		イ 生徒会活動の活性化による学校行事や部活動の更なる充実。	イ 生徒向け自己診断「行事は魅力あるものとなるよう工夫されている」の肯定的回答率を 75%以上にする。[73%]。	R3 新規項目「学校行事に積極的に取り組んでいる」 92.9% (○)
		ウ オーストラリア St ルークス高校との連携の強化による、国際化に対する意識の向上。	ウ 留学に参加した生徒の満足度 95%以上維持 [未実施]。	新型コロナウイルス感染症の為、中止 (未実施)
		エ 図書館を新たに「読書・学習・情報」活動の拠点として機能再生を構築する。 ・今後の総合探究等、調べ学習等学習活動の拠点とするとともに、読書習慣、自習習慣の定着を図る。	エ・生徒の利用者数増[新] ・図書室の利活用度[新]	コロナ禍により把握できなかった。 図書室利用 (授業含む) 年間約 30 回 次年度も継続し図書室の有効利活用に取り組む。
(2) 困り感を持つ生徒への支援体制の充実	ア 校内における教育相談体制の活用に向けた生徒、保護者への支援体制の周知徹底。 イ SC 等の外部人材の活用による教育相談体制、迅速な生徒情報の共有によるサポートのさらなる充実。	アイ 生徒・保護者向け自己診断「相談しやすい環境が整っている」の肯定的回答率 75%以上にする。[生徒 74%、保護者 71%]。	アイ 生徒 72.8% (△) 保護者 63.8% (△) 平均 68.3% (△) 感染症予防のため、保護者の来校を制限していた時期があったことが影響していると考えられる。	
(3) 体育・スポーツの拠点校としての体育科の取組み	ア 体育科専門授業と活発な部活動を通じて計画力・行動力を育成し、リーダーとしての資質の向上を図る。	ア 授業アンケート「スポーツ総合演習」の「興味関心が高まった」[90%]。「知識技能が身についた」[92%]の肯定率 90%以上を維持する。	ア「興味関心」87.6% (△) 1・2 年生の一部のクラスのみ低かったことが影響した。 ・「知識技能が身についた」 92.1% (○)	
	イ 活発な部活動による、将来のトップアスリート・競技指導者等の育成。	イ サッカー、ラグビー、女子バレーボール、男女バスケットボール、硬式テニス、水泳、陸上、いずれの部も前年度以上の成績をめざす。	イ 前年度は主な大会の中止もあり比較は難しいが、陸上競技でインターハイ優勝 1 名。	
4 健全な職場環境・安全安心な教育環境の確立	(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む職員集団の確立	ア 職員同士の円滑なコミュニケーションの促進。	ア 教職員向け自己診断「教科内で組織的に授業力向上に取り組んでいる」の向上 [83%]、「学校の改善に向けて積極的に取り組んでいる」の向上 80%以上を維持する。[83%]。	ア「各教科において話し合う機会がある」 82.8% (○) 「工夫改善を行っている」98.3% (○)
		イ 委員会の再編整備と活動のさらなる活性化により、業務内容の精選、平準化、効率化を図る。	イ 時間外勤務月間 80 時間を越える教職員の延べ数の減少 [41 名]。 ストレスチェック職場環境評価の前年度からの向上 [102]。	イ 78 名 (△) 4 月に 13 名が 80 時間を越えていた。昨年は 4・5 月が休校であったので比較すること自体に無理があると考えられる。次年度も継続して取り組む。 ストレスチェック 113 (△)
(2) 安全安心な教育環境の確立	ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。 学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。	ア 安全点検等で不良個所の減少を図る。	経年劣化等で不良個所のプールの扉、校舎廊下の天井等を修繕。トイレの洗面を自動水栓にした。	